

HPはこちら→



「強く 正しく 健やかに」 令和3年5月6日(木)第3号

都外川

はやくはやくっていわないで

校長室前の廊下に、「立ち読みコーナー」をつくりました…という話を第2号に載せましたが、そ のコーナーに置いている「はやくはやくっていわないで」という本の中に、作者の益田ミリさんの小 学生のときの思い出が書かれたプリントがはさんでありました。 (原文そのまま)

わたしの心を温かくしてくれる思い出のひとつに、小学校一年生のときの教室でのできごと があります。

その日、クラスのみんなでクジ引きを引くことになりました。なにをもらうためのクジだったの かは忘れてしまったけれど、楽しい雰囲気だったから、きっとレクレーションの時間だったので しょう。

担任は若い男の先生でした。順番にクジを引きなさいと先生が言ったので、生徒たちはい っせいに前に走っていきました。

だけど、わたしはグズグズしていて出遅れてしまった。クラスメイトの中で一番ビリ。 こんな最後に並んだら、もういいものなんてもらえない……。

そう思うと悲しくて、せっかくの楽しかった気持ちもしぼんでしまったのです。

すると、思ってもみないことが起こりました。先生がわたしのところにやってきて、みんなの 前でこう言ったのです。

「一番最後に並んでえらかったな」

わたしは先生に誉められてびっくりしました。びっくりしたけど、すごくうれしかった。 うれしくて、うれしくて、もう35年も昔のことなのに、思い出すと今でも温かい気持ちになるの です。

先生は、最後の子供までちゃんと見ていて、待っていてくれた。はやくはやくって言わない で、待っていてくれたのです。

励まされたり、なぐさめられたり、人はたくさんの言葉を受け取って前に進んでいく。でも、 一番うれしいのって、誰かが待っていてくれたことじゃないかなとわたしは思うのです。

私は、この話を読んで、改めて子供にかける言葉の大切さを感じました。学校でも、家庭でも、 温かい言葉をかけることで、子供たちの心も温かくなるのだと思います。

子供たち一人一人をちゃんと見て待つことができる西大村小学校でありたいと思っています。